

第3期第13回 帯広市産業振興会議 議事要旨

日時：平成27年1月30日（金）16:00～

場所：帯広信用金庫中央支店3階セミナールーム

I. 開 会

II. 報 告

■帯広市産業振興ビジョンの見直しに係るパブリックコメントの結果について

(事務局)

- ・H26年12月19日から翌年1月19日までの1ヶ月間パブリックコメントを実施したが、意見は提出されなかった。

(委員)

- ・パブリックコメントについては十分に周知できていたのか。

(事務局)

- ・広報誌、HP、ラジオ、コミセン等に配置してきた。商工会議所、同友会にも協力を呼びかけたが意見は得られなかった。
- ・産業振興というテーマになると、一般の方からご意見をいただくのは難しいとも感じる。

(会長)

- ・同友会の委員会などでテーマを取り上げるなど、各所属団体に持ち帰って何らかの動きを検討していきたい。

III.協 議

■具体的な取り組みの検討について

(会長)

- ・委員より、具体的にこういうことがやりたい、これとこれは組み合わせの方が効果的、など意見をお聞きしたい。

(事務局)

- ・資料1に基づき、事務局より説明
- ・前回会議終了後、委員よりいただいた意見について追記してある。

①中小企業の経営基盤の強化について

(事務局)

- ・事業検討シート1について、創業支援ネットワークは、H25年度より帯広商工会議所を事務局に16団体により活動している。
- ・創業支援機関相互の連携が十分でないことから、創業をワンストップで支援する目的で設置された。
- ・シート2について、シート13,14と同様な取り組みであるとの意見をいただいた。それぞれ同じ目的でもあるため、統一しシート14にある事業を進めることとしたい。

(委員)

- ・ネットワークはいいこと。
- ・実際に企業したい人が何を必要としているかを考えると、資金が一番の問題になっている。
- ・信金が窓口を持って相談に乗っているが、ここをどう位置づけるかが大事になってくる。

(委員)

- ・具体的にどうなのかがぼんやりしている。
- ・こういうことが行われているという周知の部分に課題を感じる。

(委員)

- ・シート1と2はほぼ連動している。
- ・支援する側の視点ばかりだと利用者と乖離してしまう。利用者が起業するのに何に困っているか、その場合何の補助金が見えるかなど、共有できる情報は共有し、利用者のニーズに合わせていく必要がある。
- ・シート1,2,13,14をスリム化したほうが良い。

(委員)

- ・ネットワークをどう使うか。創業したい人は資金だけでなく、物件、顧客獲得、などの面でも課題を持っている。その際は金融機関だけではカバーしきれないためネットワークが活用できる。
- ・資金的な制度はかなりある。また、ネットワークに日本金融公庫が入っている。政府系の金融機関と民間系の金融機関では制度が異なるため、両者が絡むことで効果があるかもしれない。
- ・創業される方が一番必要としているのは情報。この点でもネットワークは重要。
- ・創業希望者のネットワークのようなものがあると良い。創業後のフォローも含めて交流を深め、そこに金融機関入ることによってサポートも可能になる。
- ・創業後のフォローアップも必要のため、創業フェアの今後の発展も考えなければならない。

(オブザーバー)

- ・創業には北海道も力を入れている。

(会長)

- ・資金、販路など、パターン化したものがあり、創業希望者がセルフチェックできるような仕組みがあれば。
- ・創業支援のためのシステム作りが進めば、創業希望者も混乱しないのでは。窓口や流れの整理など、一度フォーマットができれば見えてくるものもあるのでは。

(委員)

- ・主要な窓口は限られている。帯広市、帯広商工会議所、帯広信用金庫中央支店の3つになっているが、営業店でも相談を受けているのが実情。販路や立地の問題については営業店では対応できないため、主要な相談窓口とネットワークがどう接続するかが問題になる。
- ・営業店で受けた相談を営業店がある程度囲いこんでしまうのは仕方ないと思われる。

(委員)

- ・創業希望者が困っているときにどこに聞けば良いのか、例えば店舗ならここ、仕入先はここ、人員はここ、など、窓口共通のフォーマットがあれば便利なのは。

(委員)

- ・どこが統括して面倒を見るのかを決めておき、うちは資金のことだけ、ということではなく面倒見てくれるような制度があれば。

(会長)

- ・商売している人に必要な要素は共通。創業しようとしている人が、自分にその要素が足りている、と思っている場合、ネットワーク間で支援機関同士の情報共有が進んでいる場合、もっといい要素、支援を提供することができるかもしれない。販路についても、他の事業者と一緒に事業展開できるような可能性があればそこを紹介したりなども可能になる。同じ書式で情報共有できればわかりやすい。

(委員)

- ・資金の情報だけで自分でどんどん進められる人は、放っとしても大丈夫な人。支援しなければいけないのはそういう人ではなく、アイデアはあるがどうしたら良いかわからない人。
- ・そういうアイデアが先行している人にどんどん創業できる環境を作ることが必要。
- ・相談を受けたところで柔軟に対応しながら、ネットワークと連携して情報共有しながらより良い情報を与える方法が好ましいと思われる。

(事務局)

- ・情報発信の統一化について、シート2のみならずシート13、14と連動しながら進めていきたい。
- ・支援を必要とする人の視点から情報を発信していきたい。
- ・可能なことから実施していきたい。例えば市のHPに掲載なども考えられるが、その手法が利用者にとって情報を得やすいかどうかとも考えながら進めていきたい。

(委員)

- ・市の作業としては大変なものかと思う。どこまでできるのか、感覚的なものでも良いので伺いたい。
- ・市だけの作業でできるのか、外部からの協力があればできるのか。

(事務局)

- ・国の制度紹介 HP「ミラサポ」では、国のみならず都道府県、市町村の様々な支援情報が掲載されている。こういった HP の周知からはじめるのが入り口として必要。
- ・掲載されている情報が、どうしても行政的な説明になっていることもあるため、概要だけでも利用者に届くような発信の仕方を考える必要がある。
- ・十勝全体で新しい HP を作るとなると時間もかかるため、今あるものをどうするか、という視点がまず必要ではないか。

(委員)

- ・関係団体に属している人であれば専門の HP も活用できるかも知れないが、そういった団体に所属していない人の利便性を考えると、実際にやるとしたら市の HP になると思う。
- ・そこに情報が集まり、発信するような形がスムーズではないか。
- ・そこまで市が動けるのかどうかなのではないかなと感じる。

(委員)

- ・一つの HP で全てを網羅するとなると膨大な作業。支援メニューが出ているページをリンクさせる、又は質問できるような場を作っていくのもありかなと感じる。
- ・その制度を使いたい人が帯広に住んでいるとも限らない。今後帯広市に進出するというところもある。
- ・利用者からの発信を受け止めるところがあると、全部網羅しなくてもさばけるのでは。
- ・見てわかるようにしなければいけないため、関係機関同士リンクでつなぎ、それぞれのページが見やすいものであるように、何らかの合意を取り整備していければ。

(委員)

- ・全部網羅する必要はないのでは。そこまではできない。情報量も膨大で、見るほうも大変。
- ・それぞれの発信されてきたものをまとめるということで良いのでは。
- ・むしろ市内企業の情報を発信するようなデータベースを作って外に発信して行くことを展望した方が良いのではないか。

(会長)

- ・関連リンクを相互に貼れるようなやり方ができれば手間はかからない。

(委員)

- ・情報があふれている時代。インパクトが必要。
- ・人材育成と帯広市というような単語同士が結びついていけば、市の HP でも検索してみよう

という動きにつながる。HP だけで発信するだけでなく、紙媒体なども使いながら周知をしていくようなことができれば。

(事務局)

- ・これまで商店街への補助金を整備しにぎわい創出を支援してきたが、その効果としてコミュニティ機能の強化などに寄与してきた。
- ・今後はこれまでの事業に加え、個店の魅力向上に資する研修を開催するほか、意向調査を実施し、補助制度の内容見直しを実施する。

(委員)

- ・研修は実際に効果あるのか。費用対効果について

(委員)

- ・商店街で成功している例は全国見てもあまりない。単発的なものはあるが、街全体が活性化した、というような取り組みはあまり無い。商店街であったり個店であったり、みんなが協力して何かするような取り組みがないと難しい。

(委員)

- ・商店街は難しい。しぼりが少ない使いやすい補助金など、商店街の自主性をお手伝いするようなものがあってほしい。

(委員)

- ・補助制度は整っている。ぶら下げておいて商店街に考えさせる。アイデアを持ってきたときに気付きを与え、みんなで盛り上げるという点からも、あまりガチガチにしない方が良いとは感じる。商店街を盛り上げるための考え方は地方創生の縮図とも感じる。商業だけでなく近隣住民の生活などが裏にあるのが商店街の問題。商店街ごとに個性や課題もあるため、自由度の高い補助制度があれば。

②産業人・担い手の育成

(事務局)

- ・UI ターン者の実態が把握できていないため、戸籍窓口において転居等の届出の際にアンケート調査を行うほか、関係団体などと連携を取りながらリスト作成、ニーズ調査を行いたい。
- ・実態調査を行った後、UI ターン者に対してフォローアップを行ってほしい。
- ・UI ターン者を確保するために情報発信を行っていく。帯広市ではまだ UI ターン者向けの HP 等をもっていないため、地域の企業情報等を掲載した HP、情報冊子を作成する。
- ・小学 3 年生を対象に行っている職業体験イベント「帯広キッズタウン」を継続して行う。
- ・高校生等の離職率等が高いことから、早期の離職対策として新入社員向けのフォローアップセミナーを開催していく。

(委員)

- ・I ターンの知り合いから、就職先に非常に苦労した話を聞いた。企業の採用情報が非常にわかりにくかったとのこと。
- ・仕事がないと UI ターンは来ない。仕事情報の発信の仕方に工夫が必要。

(委員)

- ・40 代手前の UI ターン者が多いように感じる。ねらい目ではないか。集中的な情報発信が重要ではないか。
- ・情報がちゃんと学生、UI ターン希望者に伝わっていない可能性がある。情報のミスマッチが起きているのではないか。冊子や HP といった単純な話ではなく、適切な人に適切な情報を届ける精度の高い仕組みが必要。

(委員)

- ・資料中 4 と 5 (調査とフォローアップ)、11 と 12 (人材育成行程表とメンター制度) は同じ事業として扱っても良いのでは。
- ・住む所と働く所の情報は関連が強い。どんな会社が人材を必要としているのかという情報と移住はセットで考える必要がある。
- ・企業情報の発信は各企業で行うことを想定しているが、地域のためにという考えでいくと、働く人を募集している企業情報については行政が周知を行っても良いのでは。

(委員)

- ・上士幌町のふるさと納税感謝祭の狙いは移住・定住。あれが参考になるのでは。
- ・今後全国で同じような取り組みが出てくると思う。そうなった時のために、北海道に目を向けている人たちの情報を集めておき、帯広市単独で行くのか、近隣 3 町も含めて活動をして行くのか、作戦が必要になってくる。
- ・UI ターンの話は地方創生会議の内容にマッチしてくる。
- ・若手の話だが、地域の新入社員の交流会というものがあれば面白い。入社 5 年目まで誰でも良いよというものがあると面白い。仕事の愚痴を言い合ったり。そういうもので離職を止めるのもありえるのかなと思う。

(オブザーバー)

- ・テレビで修学旅行生 (高校生) のファームステイの話を見た。
- ・若い人に十勝を PR する取り組みとして良いなと思った。その中から畜大を目指す人も出てくるのでは。
- ・6 次産業化など第 2 創業を通じて農業関係に活気が出てくると産業にも影響してくるのでは。

(委員)

- ・東京は豊かそうだが豊かではないように感じる。
- ・北海道でやっていけるのかという、移住の入り口の不安に対し、十勝の生活ベース (何歳がこれくらいの所得で家賃がこれだけなど) を紹介することで安心させることができるのでは。

- ・音楽家や芸術家、喘息持ちの子供の家族など、ここの地域の特性を PR して夢を見させ、夢が現実になるということを訴えても良いのではと思う。頭の中に絵を描けるような情報発信の仕方をしないと、帯広ではなく札幌に行くのではないか。札幌ではなく十勝に来させるためには地域特色や生活感を具体的な発信が必要。

(委員)

- ・十勝に住んでいる人がどういう風に地域の担い手、後継者になるべきか。若い人を雇うときに、子育て支援などができないのか。個々の会社で考えると非常に難しいが、担い手の育成にそういった視点も必要ではないか。働いている人が働きやすくなるために企業に支援をするなど。

(事務局)

- ・従業員に育児休業を取らせている会社に対して奨励金を出すなど支援を行っている（こども未来部）

③ものづくり産業の振興

(事務局)

- ・資料に基づき事務局より説明

(委員)

- ・事業のプランを練っているうちに補助金申請のタイミングを逃してしまう。
- ・補助金を申請して通ったら事業を実施する、という流れではなく、まず企業の取り組みがある中で、とてもいい事業だと認められるものに対して報奨金を与えるなどできないか。
- ・成功した場合、企業なのでリスクを背負ってやっている。

(委員)

- ・市が直接的に、という部分が少ない。
- ・もともとあったものについては具体的なものがあるが、23～26の事業については具体性がない。捉え方として、会議の中で出てきたため具体性がまだ無いということなのか、長期的な取り組みのためまだ記載する必要がないものなのか。

(事務局)

- ・事業 23 については、まだ具体策のイメージが詰めきれていない。
- ・事業 24 では、HP 自体は作成可能だが、コンテンツや継続性といった面で検討が必要。
- ・事業 25、26 については、次年度事業として商社を活用した取り組みを予定しているほか、市が事務局を持つ海外展開連絡会議において、様々な検討を現在始めており、まずは企業情報の共有というところを考えている。

(委員)

- ・事業の想定まではいつていない状況であり、24 は総合振興局が対応すべき内容にも思える。

- ・具体性が出ない限り積極的にはなれないと感じた。

(委員)

- ・関連する事業が多く、整理が必要に感じる。
- ・商社と連携する事業の具体的な内容を聞きたい。

(事務局)

- ・地元の商社が実際に物流等を担っているため、個別の企業が単独でやって行くのが困難である中、そういった商社機能を活用することを考えている。

(委員)

- ・海外展開連絡会議はこれから動いていくのではないかと。

(オブザーバー)

- ・ものづくり産業については、もっととかち財団を利用できればと感じる。
- ・十勝で作った製品を域外で加工している実情がある。十勝に足りない機械があるならば、この機械が必要だ、という方向性が定まっても良いように感じる。
- ・私が相談を受けた中では、ジュースに充填する機械なども十勝に無いため、域外に外注に出さなければならず、採算が取れない。
- ・とかち財団にもものづくりに必要な工業機械装置があり、新製品を作るときには使えますよとなれば、もっと活気がでてくるのでは。

④産業基盤の強化

(事務局)

- ・工業系用地の需要等の調査等を行うほか、企業立地の促進のためにはどういった取り組みが必要なのか、しっかりと考えて行きたい。

(委員)

- ・共同利用施設に関心がある。どういう風にこれらがなされるかという点難しい。
- ・ものづくりと絡んでくると思うが、具体的にどうして良くなるかがこれからの課題。
- ・財団の方の取り組みと併せて進み、全体として動いて行けば理想に思う。

(委員)

- ・観光ポータルサイトについて、既に様々なサイトがあるが、多くあっても邪魔になるものではないためどんどん作ることは良いと思う。ただし、同じようなものが多い中で、どのように特徴を出して行くかが課題になってくる。
- ・事実を紹介するだけでなく、映像に特化、ストーリー重視など、他との差別化をすると面白い。その上で他の観光サイトとリンクが張られているなどできれば面白い。

(委員)

- ・一市でできることではない。十勝で連携して取り組むことが必要。

(委員)

- ・共同利用施設はそう簡単にできないがあつたらいいなと思う。
- ・以前愛知から羊の毛がほしいとの依頼があつたが、羊の毛を洗う設備が無く、製品として出荷することが難しい。例えばそういうことを共通でできる場所があれば。

(オブザーバー)

- ・工業団地が古くなってきた。そろそろリニューアルがあつてもいいのかなと思う。音更の工業団地と比較されると古さが目立つ。
- ・エネルギーについても、財団で太陽光の取り組みを昔からやっている。
- ・木を使ったボイラーなど、木質エネルギーを使う仕組みがあれば。

(委員)

- ・再生エネルギーはものづくりの一環として、エネルギー産業として育成して行くという方法もあるのでは。
- ・どの市町村でも再生エネルギーの取り組みを行っているが差がある。市でも目標はあつても具体的にどうするかという考えは無い。再生エネルギー事業に取り組むと、材料や物流なども含め非常に大きな経済活動に繋がる。
- ・単純な環境問題ではなく、産業の創出といった観点も必要では。

⑤集客・交流産業の振興

(事務局)

- ・委員より、とかち検定の今後の方向性について資料提供いただいている。
- ・検定合格者の活用方法や検定の普及に向けた取り組みなどについて、今後の検討課題とされている。
- ・「地域の魅力向上」への対応として 34 番から 37 番の取り組みを挙げている。
- ・「地域の魅力発信」として 38 番から 42 番で提案している。
- ・最後に「満足度の向上」として 43 番から 47 番を提案したもの。

(委員)

- ・観光地であるためには、ここだけの魅力が必要。体験型は十勝ならではであり、発展させるために体験型観光に取り組む事業者に対しての助成、減税はできないか。

(事務局)

- ・国の緊急雇用創出事業を活用し、H25 年度、H26 年度の 2 カ年に渡り畑ガイドの養成を行い、2 カ年で畑ツアーの参加者が 1,000 名を超えていることから、一定の成果を挙げていると考えている。

(委員)

- ・十勝の観光情報は飛躍的に増えている。今後もますます拡大していく。
- ・この先懸念すべきことは、一つは来ていただいた観光客に満足感を与えられるか。外国人の方に気持ちよく十勝を体験していただけるかといった、質的な向上がポイントになる。
- ・もう一つは、マナーを理解できていない外国人観光客等に対して、もっと日本、北海道のマナーを発信することが大事になるのでは。
- ・こういった情報は、旅の情報誌にはあまり載らないものなので、例えば行政がそういった冊子を作って情報発信することが重要になるのでは。

(事務局)

- ・外国人観光客は微増ながら増えている。
- ・新幹線の開通、東京オリンピック、パラリンピックの開催などがあることから、今後ホスピタリティの向上は更に重要になってくる。
- ・紙媒体のパンフレットも大事だが、wi-fi スポットの増設などを通じて外国人の方が自分で調べられるような環境づくりを検討している。

(委員)

- ・もともと総合計画にも観光があまり掲載されていなかったのが、観光が産業として認識され、こういった議論ができることから、変わってきたのかなと思う。

(オブザーバー)

- ・JICA があることから十勝、帯広は外国人が多く感じる。
- ・研修員の方々は、おそらく日本というより北海道、十勝というブランドを覚えて帰って行くのかなと思う。
- ・十勝という名前、ブランドは広がっているように感じる。

(委員)

- ・ニセコの例だが、なぜ外国人に受けているのかを考えると、スキーは一つのきっかけであって、本当に人を呼んでいるのは、あそこにいる外国人が引っ張ってきている。
- ・ニセコにいる方を味方にして、連携して何かできれば。

IV. 閉会

【次回開催】

日時：平成 26 年 3 月下旬

会場：未 定